過去に研究に参加し、MRI 検査を受けられた方へ

量子科学技術研究開発機構（以下、QST といいます）と北海道大学、福井大学、順天堂大学、慶應義塾大学、名古屋大学、名古屋市立大学、熊本大学、沖縄科学技術大学院大学では、以下の共同研究を実施しています。この研究の詳細について詳しくお知りになりたい場合には、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲で、研究計画書や研究の方法に関する資料を閲覧いただくことができます。また、個人情報保護法に基づく個人情報の開示・利用停止等の手続きを希望される場合には、下欄の問い合わせ窓口までお問い合わせください。

<table>
<tr><td colspan="3">【研究の名称】
神経変性疾患・精神疾患における MRI の脳微細構造・脳内沈着物・脳機能との関連性についての共同研究</td></tr>
<tr><td>①</td><td>試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）</td><td>●研究の目的
神経変性疾患や精神疾患の患者さんおよび健常ボランティアの方を対象に、MRI 画像を解析するとともに、PET 集積分布や血液バイオマーカー、神経心理検査、臨床症状等との関連を評価することで、以下の検討を行います。
・　各種疾患と健常者における脳微細構造・脳内沈着物・脳機能に関する MRI 指標の違いの有無
・　各 MRI 指標と PET 画像、血液検査データ、神経心理検査を含む臨床情報との関連性

●研究の対象
QST において⑪【QST における既存研究】に参加し、MRI 検査、あるいは MRI 検査および PET 検査を用いた検査を完了された患者さん及び健常ボランティアの方

●利用（又は提供）方法
情報は、お名前などの個人を直接識別できる情報を削除し、他の情報と照合しない限り特定の個人を識別できないよう加工されており、下記のいずれかの方法で共有し、MRI 画像解析や、PET の集積分布、血液バイオマーカー、神経心理検査、臨床所見との関連性評価に利用します。
(1)パスワード管理された外部記憶装置（外付け SSD など）に保存されたデータを運送事業者、または研究者が直接搬送します。
(2)暗号化されたファイルを関係者のみがアクセス可能なクラウドサーバー上にアップロードします。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>利用し、又は提供する試料・情報の</td><td>既存研究で取得した以下の情報：</td></tr>
</table>

	項目	- 基本情報（年齢、性別などの背景情報） - 臨床情報（診断名、病歴、神経学的所見、臨床経過等） - 検査結果（神経心理検査結果、血液測定データ） - 画像データ（MRI 画像、PET 画像データ）
③	利用又は提供を開始する予定日及び研究期間	各研究機関の長の許可日～2030 年 3 月 31 日
④	試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名	●量子科学技術研究開発機構（QST 病院長　石川　仁）
⑤	提供する試料・情報の取得の方法	⑪【QST における既存研究】に参加され、他の研究への二次利用に拒否していない方の試料・情報をこの研究に利用します。 この研究のために新たな検査や質問を行うことはありません。
⑥	提供する試料・情報を用いる研究に係る研究代表者の氏名及び当該者が所属する研究機関の名称	研究代表者：宮田　真里 量子科学技術研究開発機構　量子医科学研究所 脳機能イメージング研究センター
⑦	利用する者の範囲	●量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所脳機能イメージング研究センター 宮田 真里 ●北海道大学病院 放射線診断科 池辺 洋平 ●福井大学 学術研究院工学系部門 中江 健 ●順天堂大学医学部附属順天堂医院 放射線科 鎌形 康司 ●慶應義塾大学医学部 精神・神経科 中島 振一郎 ●名古屋大学大学院 医学系研究科 本田 直樹 ●名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経外科学分野 山田 茂樹 ●熊本大学大学院 生命科学研究部 米田 哲也 ●沖縄科学技術大学院大学 神経計算ユニット 銅谷 賢治
⑧	試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所 脳機能イメージング研究センター 北海道大学病院 放射線診断科 福井大学 学術研究院工学系部門 順天堂大学医学部附属順天堂医院 放射線科

		慶應義塾大学医学部 精神・神経科 名古屋大学大学院 医学系研究科 名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経外科学分野 熊本大学大学院 生命科学研究部 沖縄科学技術大学院大学 神経計算ユニット
⑨	研究対象者等の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する旨	本研究の研究対象者に該当する可能性のある方（又はその代理人の方）で、試料・情報を本研究目的に利用又は提供されたくない場合、⑪【QST における既存研究】に既に参加されている方は 2027 年 3 月 12 日までに、2026 年 9 月 12 日以降に参加される方は同意日の 6 ヶ月後までに、下記⑩の問い合わせ窓口までご連絡下さい。申し出期限以降にお申し出いただいた場合も可能な限りデータを取り除きますが、申し出があった時点で、既に個人情報と切り離され解析に使用されてしまった場合にはデータを取り除けない場合があります。その場合であっても、研究対象者の個人を特定できる情報が公表されることはありません。
⑩	問い合わせ窓口	この研究の内容についてご質問がある場合、下記の問い合わせ窓口へご連絡ください。ご自身の試料・情報に関するお問い合わせや利用又は提供を希望しない場合には、下記にご連絡ください。 ＜QST＞ 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所 脳機能イメージング研究センター 住所：〒263-8555 千葉県千葉市稲毛区穴川 4-9-1 電話：043-206-3251 平日：8：30～17：00

⑪【QST における既存研究】

1. 脳内タウイメージング用放射性薬剤[11C]PBB3 を用いた変性性認知症病態に関する研究（研究計画番号：12-023）
2. 脳内タウイメージング用放射性薬剤[11C]PBB3 を用いた外傷性脳損傷の病態に関する研究(研究計画番号：13-015）
3. 放射性リガンド(E)-[11C]ABP688 を用いた、脳内代謝型グルタミン酸受容体 5 定量測定の再現性評価（研究計画番号：14-002）
4. 脳内タウイメージング用放射性薬剤[11C]PBB3 を用いた老年期精神症状の病態に関する研究（研究計画番号：14-014）
5. [11C]PBB3-PET を用いた変性性認知症病態の包括的縦断研究　（研究計画番号：14-032）
6. 脳内タウ PET イメージングを用いた統合失調症と前頭側頭型認知症の共通病態の同定に関する研究（研究

計画番号：16-037）

7. 自閉スペクトラム症と注意欠如・多動症における脳内ドーパミン D1 受容体およびノルアドレナリントランスポーター結合と症状との関連についての研究（研究計画番号：16-038）
8. 統合失調症における脳内ホスホジエステラーゼ 10A・神経伝達機能と臨床像との関連についての研究（研究計画番号：17-014）
9. 脳内ホスホジエステラーゼ 10A および脳内タウのイメージングによる双極性障害の背景病態に関する PET 研究（研究計画番号：17-027）
10. [18F]PM-PBB3 を用いた神経変性疾患におけるタウ蛋白病変と臨床症状の関連性についての研究（研究計画番号：17-034）
11. ADHD 患者のメチルフェニデート未服薬時・服薬時におけるドーパミンおよびノルアドレナリントランスポーター結合能の変化と臨床症状との関連についての検討 （研究計画番号：19-031）
12. 口腔内-脳内環境連関についての研究（研究計画番号：19-034）
13. 怒りの制御困難を呈する後天性脳損傷患者に対する認知行動療法の効果検討　－多施設共同無作為化比較対照研究―（研究計画番号：19-036）
14. 老年期精神障害の背景病態に基づく層別化およびタウ病変の進展様式の解明を目的とする PET 研究（研究計画番号：19-040）
15. うつ病および器質性うつ病における脳内 monoamine oxidase-B の変化と症候との関連についての研究（研究計画番号：N21-010）
16. 注意欠陥多動性障害におけるドーパミンおよびノルアドレナリントランスポーター結合能と臨床症状との関連に関する共同研究（研究計画番号：N21-011）
17. [11C]K-2 を用いた認知症関連疾患における脳内 AMPA 受容体密度と蛋白蓄積症との関連性についての研究（研究計画番号：N21-023）
18. 多施設連携プラットフォーム（MABB）を基盤にした各種認知症性疾患に対する日本発の包括的な診断・層別化バイオマーカーシステムの確立（研究計画番号：N21-025）
19. MRI による生体機能情報定量測定の機種依存性に関する研究（研究計画番号：N22-015）
20. 多彩な中枢神経疾患に続発する遷延性神経炎症とタウオパチー病態に関する PET および死後脳を用いた研究（研究計画番号：N24-008）